

# ビジネス・スペシャリスト を目指して



NSU

ポイント

1

## ビジネススクール指向のカリキュラム

名古屋産業大学では、ビジネススクール指向のカリキュラムがスタート。現代ビジネスの成長分野を担う知識と能力を備えたビジネス・スペシャリストの育成に取り組んでいます。

### ◆…コミュニケーション力の育成を重視した教養教育

豊かな人間性を育てる教養教育では、コミュニケーション力の基礎を育成するため、こころ(心理学)、ことば(語学)、情報リテラシーに関する科目群(33科目)を配置。また、心理学の所定の科目を履修することで、卒業時に「認定心理士」の資格取得も可能です。

### ◆…ビジネスの基礎を身につける専門基礎教育

専門基礎教育では、ビジネスの基礎を学ぶ科目群(8科目)を配置。必修科目として「ビジネス能力検定」の資格取得に取り組むとともに、経営学系の4科目では中小企業診断士をかかえる(独)中小企業基盤整備機構中部本部の経営サポートチームと連携した実践型学習を体験できます。

### ◆…現代ビジネスの成長分野を学ぶ専門教育

専門教育では、「環境ビジネス」、「情報コミュニケーション」、「ビジネスプロフェッション」の3つのコースを開設。現代ビジネスを牽引する成長分野の知識を系統的に学ぶことができます。また、3年次の春学期には、カリキュラムの最大の特色である「ビジネストレーニングプログラム」を選択履修します。

NSU

ポイント

2

## ビジネストレーニングプログラム

国内外における長期インターンシップ(3ヵ月程度)を中心に、社会実践を通じて学ぶ教育プログラム。最大で18単位を取得することができます。

### ◆…株式会社名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス

### ◆…国内インターンシップ(農山村インターンシップ、企業インターンシップ)

### ◆…海外インターンシップ

このほか、学内で地域ビジネスを実践的に学ぶ教育プログラム(地域ビジネス論)を用意、関心や将来の進路に応じて選択履修します。

NSU

ポイント

3

## 国内外に広がるフィールドキャンパス

ビジネストレーニングプログラムを中心としたビジネススクール指向のカリキュラムでは、企業や国の関係機関、地方自治体、海外の大学などとの連携を強化しています。

企業等と連携した実践型学習などを行う「社会人基礎力育成科目」も60科目まで拡大中です。実践教育の場となるフィールドキャンパスは、尾張旭キャンパスを拠点に、愛知県、長野県、三重県等の国内各地域、さらには、オーストラリア、中国、台湾などアジア、オセアニアに広がっています。

# 学内に株式会社

株式会社名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス

# 学生が企業運営

全国初の試み

名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネスは、環境ビジネスを展開する企業群と連携した実践的なビジネストレーニングの場として設立。学生が主体的に会社運営に参画し、ソーシャルビジネス（社会的事業）を展開します。学生と連携企業群には相互理解（マッチング）が生まれ就活のない就職が可能になります。

名古屋産業大学では、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受け、企業や地域等と連携した「共育」の仕組みづくりや多彩なインターンシップ（就業体験）の場づくりに取り組んでいます。

平成24年度にスタートする新カリキュラムでは、3年次の春学期を対象にビジネス・トレーニングプログラム（選択必修科目）を配置しています。

## 実践学習で学生と企業群がマッチング

環境ビジネス講座の開講とこれに基づく事業活動。  
環境ビジネスを展開する企業群が、学生と実践学習で連携します。

代表取締役  
伊藤雅一学長

事業収益は、  
環境教育の普及や  
学生の就業力支援  
などに還元します。

当面の事業展開

省CO<sub>2</sub>効果の高い  
**LED照明の普及促進**  
CO<sub>2</sub>濃度測定局を拠点とした  
**環境教育の促進**  
上記に係る  
**人材の指導・育成**

### 会社概要

名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス

## 株式会社 名産大G.S.B.

- 社名 株式会社名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス
- 所在地 愛知県尾張旭市新居町山の田 3255-5 名古屋産業大学内
- 設立 平成23年3月28日
- 資本金 100万円（平成23年3月28日現在）
- 代表取締役 伊藤雅一（名古屋産業大学学長）

### 主な連携企業（順不同）

環境ビジネス講座等には、以下の企業の経営者、実務担当者に講師としてご参画いただいています。

(株) シャルレライテック、(株) 扇港電機、(株) ユードム、  
シャープエレクトロニクスマーケティング(株)、(株) ラックランド、  
パナソニック(株) エコソリューションズ社、(株) MARUWA  
ミネルヴァ・コンサルティング(株) ほか

# 無就活大学

を目指して

# 農山村地域の課題解決で 実践的な学び



NSU

ポイント  
1

## 2 町村で農山村ビジネスを体験

2012年4月にスタートした新カリキュラムでは、3年次の春学期に正課教育として農山村インターンシップを導入。実施にあたり長野、三重の2町村で協定を締結しました。

- ◆…長野県阿智村（尾張旭市、阿智村、村の観光局との協定）
- ◆…三重県津市美杉町（住民組織との協定）

人口減少に伴い、地域活性化に向けた農山村ビジネスの重要性が、今後さらに高まることが予想されます。観光振興や特産品の開発、過疎化対策など課題は様々。農山村地域が抱える課題をテーマとした実務研修に取り組むことで、実社会で求められる実践的な知識や就業力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身に付けることを目的としています。

NSU

ポイント  
2

## 3 カ月にわたる長期滞在型

いずれも本格実施は、今年度の新入生が3年生になる2014（平成26）年度から。春学期に3カ月にわたる長期滞在型の社会実践を経験します。2012、2013年度は試行期間として、大学の夏休みに1週間程度の短期滞在型のインターンシップを実施します。

NSU

ポイント  
3

## 長野県阿智村でのインターンシップ



村内の昼神温泉郷にある尾張旭市保養センター「尾張あさひ苑」を拠点に、村の観光局、阿智村役場の協力を得て実施。旅館業務を中心に、観光PRや地域振興などにも取り組みます。学生の滞在にあたっては、あさひ苑の職員宿舎が無償提供されます。現地までの交通手段は同苑の無料送迎バスが提供されます。

NSU

ポイント  
4

## 三重県津市美杉町でのインターンシップ



住民組織「太郎生(たろう)地域づくり協議会」が運営する旅館「たろっと三国屋」を拠点に、滞在型市民農園「城山クラインガルテン」や津市美杉総合支所の協力を得て実施。旅館業務を中心に、観光資源のPRや誘客に向けた情報発信などに取り組みます。学生の滞在にあたっては、同旅館または、城山クラインガルテンの宿泊棟が無償提供されます。

# アジア・オセアニアに広がる 実践的な学び

NSU

ポイント

1

## 1年を超える留学経験

名古屋産業大学では、グローバル社会に対応できる学生を育成するため、以下のように系統的な語学教育、海外留学のプログラムを実施しています。

**Step1**…正課教育内外での語学学習

**Step2**…2週間の短期語学留学プログラム

**Step3**…1か月間のショートビジットプログラム

**Step4**…1年の交換留学プログラム

また、留学生と語学や異文化を日常的に学び合うスタディメイトの仕組みも用意しています。こうしたプログラムを積極的に活用し、4年間の在学中に1年2カ月の海外留学を経験する学生もいます。

NSU

ポイント

2

## 留学への経済的支援

海外留学に伴う経済的負担を軽減し、より多くの学生が参加できるよう、短期語学留学への助成を行います。また、独立行政法人「日本学生支援機構」等の留学支援プログラムの採択を受け、2012年は、ショートビジットプログラム3名、交換留学プログラム1名の学生に対し、1か月当たり8万円の奨学金が支給されています（2012年5月現在）。

NSU

ポイント

3

## 海外インターンシップ

2012年4月にスタートしたカリキュラムでは、3年次の春学期（4月～9月）に、正課教育として海外インターンシップを導入。オーストラリア（グリフィス大学）、中国（江蘇大学等）、台湾（育達商業科技大学等）などの大学と連携し、3か月間にわたって、語学研修を行いながら、日系企業をはじめとした現地企業でのインターンシップ（就業体験）を計画しています。

名古屋産業大学での実践的な学びの場（フィールドキャンパス）は、アジア・オセアニアに広がっています。

NSU

ポイント

4

## クブチ砂漠植林ボランティア



名古屋産業大学では、学生が中心となって緑の協力隊を組織。2011年までに、中国・クブチ砂漠で植林したポプラは、4893本を超えました。こうした経験と実績を踏まえ、クブチ砂漠に設けられた「名古屋産業大学の森」への植林活動に取り組んでいます。

# 留学経験生かした就職へ

## 辻有加<sup>さん</sup>

環境情報ビジネス学部3年

体験談



私は、1年生のときに大学の中国語講座を受け、初めて台湾（淡江大学）へ2週間の語学研修に行きました。

次に語学力のステップアップを図るため、2年生の春休みには、1カ月間のショート・ビジットで台湾の育達商業科技大学に留学しました。

初めて台湾へ行ったとき、授業で中国語を受講しましたが、現地では全くわからず勉強の毎日でした。しかし、言葉がわからなくても台湾の学生や関わってくださる先生方は本当に親切な方が多かったのをとても覚えています。

私が現地で風邪をひいてしまい、熱を出してしまったときには、淡江大学の学生がわざわざ布団を貸してくれたり、お粥のお店へ連れて行ってくれました。食べ物もとてもおいしく、とくにパイナップルの甘さには驚きでした。2回目に台湾へ行った時は、私が台湾の学生の言っている言葉を聞き取れない場合は、ゆっくり話してくれたり、身振り手振りをして私に意味を伝えようとしてくれました。また、英語、絵や図を使ってコミュニケーションを取りました。中国語を教えてもらうなか、台湾語も少し教えてもらったりして、私が中国語・台湾語を覚えると台湾の学生はとても喜んでくれました。

また、私が2回目の短期留学に参加した時は、中国の南京で1年間留学を終えた本学の先輩も一緒に参加していました。先輩には、

数えきれないほど通訳してもらい何度も助けてもらいました。その度に、話せない自分が悔しかったです。今の私にとって先輩は憧れであり、目標でもあります。先輩のおかげで、今年再び1年間の台湾留学への1歩が踏み出せたのかもしれません。

まだまだ不安なことはたくさんありますが、現地では頑張るしかありません。苦しい毎日がしばらく続くと思います。しかし、4年生になって日本へ帰ってきたときに大学内にいる中国人の留学生と中国語で会話することが私の目標です。この目標を達成できることを楽しみに1年間頑張りたいと思います。帰国してからは、中国語を活かせる日系企業への就職を考えています。

## 国際人を育てる環境整備

国際交流委員長・林 敬三教授

環境に配慮したビジネスを国際的に展開するには、英語・中国語でのコミュニケーション能力の向上が不可欠です。

本学では、複数の文部科学省事業の採択を受けて、英語・中国語の教育とアジア・オセアニア地域での海外研修を充実してきました。台湾・中国・オーストラリアでの短期留学に参加する学生が増えています。

名古屋産業大学には、英語や中国語を使って国際的に活躍できる学生を育てる環境が整っています。

